

アジア金融危機との比較から見る新型コロナウイルスによるウェイトピッカーの障害
—チレンドゥ地区の実情と文献資料を参考に—

Obstacles Waste Pickers Are Facing Under COVID-19 in Comparison with the
Situation Under Asian Financial Crisis in 1997

—Focusing on the Case in Cirendeu and Other References in Publications—

柿沼 真奈 (東京大学大学院)

KAKINUMA Mana (Graduate School, The University of Tokyo)

新型コロナウイルスの流行は場所を選ばない。インドネシアも例外ではなく、10月4日時点での保健省の発表によれば国内感染者数は累計422万人ほど、死者数は累計14万人にもおよぶ。インドネシア政府は2020年2月12日に中国インドネシア間の航空便の運航を停止して以来、国際的なヒトの行き来を制限する水際政策と、国内での感染予防・対策措置を行ってきた。しかし、地理的制約や銀行口座の保有率などの問題で現金給付の遅延、給付対象者の選定方法に対する不満などで、批判も高まっている。一方で地方政府や地域住民は、中央政府の対応に痺れを切らし、独自に対策を進めてきた。また民間企業や非営利団体も貧困に苦しむ人々を危惧し、寄付や支援を始めている。その中でも、ゴミの収集と売却で生計を立てているウェイトピッカーは、特に弱者の立場にある[Hughes 2020]。これまでも多くの研究者が、ウェイトピッカーが日常的に脅かされていることを明らかにしている[Lavigne et al., 2014; Sasaki et al., 2014]。最終処分場での死傷事故、怪我や感染症の健康被害、職業の不安定性、社会的差別など、脅威の枚挙にはいとまがないが、特に世界規模の危機が起こったとなれば、この状況がさらに悪化するの明白である。

今回の発表では、まずウェイトピッカーについて紹介し、コロナ禍で、彼らがどのような困難に直面しているのかを文献やオンライン会議での調査をもとに明らかにする。次に、アジア通貨危機の際に起こった混乱や障害を比較対象としてまとめる。最後に結論として、コロナの蔓延に際し、公的な支援がなされるべきである一方で、草の根的な方法として、相互扶助に頼らざるを得ない現実もあることが示唆できる。

[文献]

Hughes, K. (2020, May 6). Protector or polluter? The impact of COVID-19 on the movement to end plastic waste. Retrieved March 7, 2021, from World Economic Forum website

Lavigne, F., Wassmer, P., Gomez, C., Davies, T. A., Sri Hadmoko, D., Iskandarsyah, T. Y. W. M., ... Pratomo, I. (2014). The 21 February 2005, catastrophic waste avalanche at Leuwigajah dumpsite, Bandung, Indonesia. *Geoenvironmental Disasters*, 1(1), 10.

Sasaki, S., Araki, T., Tambunan, A. H., & Prasadja, H. (2014). Household income, living and working conditions of dumpsite waste pickers in Bantar Gebang:

Toward integrated waste management in Indonesia. *Resources, Conservation and Recycling*, 89(August), 11–21.